

中津川市総合計画審議会
第4回 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会要旨

平成25年10月31日(木)

午後3時30分開会

部会長あいさつ

(加藤 出部会長) 第3回の教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の発言で田島副部会長から一部取り消したいとの申し出があるが許可してよろしいか。

～異議なし～

(田島副部会長) 配慮に欠けた不適切な発言があり申し訳ない。議事録から削除をお願いしたい。

(加藤 出部会長) よろしいか。

～異議なし～

1. 第3回教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見のとりまとめについて

(加藤 出部会長) 第3回の教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の意見の取りまとめについてを議題とします。

11日にそれぞれの立場で意見をもらいそれを事務局で取りまとめた。また3名から意見が出たので、その意見を聞いていきます。

(小池委員) 自分の思いとして、福祉・医療関係では「だれもが安心して暮らせる福祉のまちをつくります」「安心して子育てができるまちをつくります」「ゆとりと生きがいのあるまちをつくります」を考えた。

教育・文化スポーツ関係で「ふるさとを大切に作る教育と文化のまちをつくります」「ふるさとと歴史・文化を大切にしたいまちをつくります」。文化は幅が広いが私なりにまとめたので参考にしてほしい。

(加藤 出部会長) 原 善一郎委員は欠席なので報告するが、キャッチフレーズとして「住みたい町 中津川 誇りに思う町づくり」といただいている。

私の提案の将来都市像のキーワードは「安心・安全」「健康・福祉」「人間形成のコミュニティ」「教育・文化・スポーツ」「街づくり」「環境・自然」。ここには歴史・文化いろいろ含んでいる。

「リニアも含めた産業・経済」「リニアタウン・新しいまちづくりのイメージ」がキーワードになると思って挙げた。

将来都市像は3つの部会を1つにするとこうなるのかなと思いキャッチフレーズ的なことを書いた。「人・自然・産業が共生する 活力ある中津川」。人はコミュニティ形成をしていくことが大事で、自然の中には歴史・文化も入っている。産業が共生するということは新しくリニアという大きな時代が来るので、

そういうものも含めて農林業と商工業が共生するような活力ある中津川にする
ということを盛り込んだ。

全体の将来都市像だが、この部会の将来都市像の基本目標として「誰もが安全
で いきいきと暮らせる 安心・福祉都市」「①あたたかい地域福祉社会をつく
ります」「②次代を担う子どもが健やかに生まれ育つ社会をつくります」「③高
齢者がいきいきと暮らせる社会をつくります」「④障害者がいきいきと暮らせる
社会をつくります」「⑤健康に暮らせる社会をつくります」「⑥安全で安心して
暮らせる社会をつくります」。生活していくうえで大事なところを書き出した。

「学び合い 人と地域をはぐくむ 教育・文化都市」と謳い、「①心豊かな子ども
をはぐくむ教育環境をつくります」「②生涯を通じ学習する人・スポーツする
人を支援する社会をつくります」「③豊かな市民文化を創造する社会をつくりま
す」「④人権と世界平和を尊重し、ともに生きる社会をつくります」。世界のあ
ちこちで紛争が起こっているが、同じ人間として取り組みできる社会を作って
いったらどうかということです。

質問あればお願いします。

～質疑なし～

2. 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像について

(加藤 出部会長) 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の考える将来都市像についてを議題
とします。落ちたところがあればお願いします。

(丸山輝城委員) 2、3付け加えてほしいことと質問だが、これから3つの考え方で中津川市
総合計画を策定してほしい。

子ども子育ての問題を考えると米百俵ではないが、この辺の考えが共通の価値
観で「子どもたちがのびのび」とか「元気で」とか「明るく」とかは何の間違
いもないが、理念として考えると道徳的教育というのが出てきて、道徳的とい
うとまたいろんな議論が醸し出されると思う。世田谷区立船橋小学校では1年
生の時から論語を教えているし大阪市の塚本幼稚園でも子どもたちに論語を教
えている。道徳というといろんな主義主張の人が入ってくるが基本的な子育て
教育は米百俵の視点から考えていく必要がある。そうすればみんなが有無を言
わずやっていけるのではないかと思う。

2つ目はこれから中津川市で循環型社会を考えていくときに、スマートシティ、
スマートハウスを入れておく。そうするとそれと合わせて農林業の関係も出て
くるのではないかと思う。

3つ目にリニアを見据えていくときに、国際都市の一員としての中津川を考え
ないといけない。今年出始めた言葉で「高度外国人」という言葉がある。この
地域には欧米系の高度外国人が来ている。来月名古屋工業大学の学生をたくさ
ん使ってこの調査をしたいと思っているが、こういうことからいって国際都市

の中津川として何が必要か。宿泊もいるだろうし今までの街道文化を掘り起こすことも大事。

学校教育の問題では、やっぱり移住定住を促進するには学力もしっかり踏まえてやらないといけない。

医療の問題もそうだが、事務局長がよくなると黒字化できるという意見があるが、市民病院は永遠に黒字化できないと思う。これはある程度みんなが負担していかないといけないが、一次医療・二次医療の問題と開業医の皆さんが元気になる場所も必要だと思う。

それから市長部局と教育委員会で家庭教育とあるが、やっぱり地域社会ではないかと思う。地域の民度を上げていくことで家庭教育をみんなでやっていかないといけない。市長部局ががんばれば家庭教育がよくなるとは思えない。

リニアを見据えて産業振興の問題と高度医療の問題、研究機関の誘致。岡崎市には分子科学研究所があり新鳥栖には九州国際重粒子線がん治療センターがあるが、こういうものに手を付けるために力を発揮していかないといけない。そして移住定住促進のためには学力レベル、教育レベルを強化しないとおぼつかないと思う。

(今井委員) 公立病院の事務長云々は、今はあまりにも替わりすぎていて、今さえよければいいという短期的な責任逃れだけの事務長が多いと市民病院の先生が実際に言っていて、黒字化は無理だが1人の方が長期的な病院の運営方針を作って毎年こつこつやらないといけないという意味で言った。市民病院にはいろいろと問題があると思うので、腰を据えてやっていかないといろんな問題が解決しないという意味。

(丸山輝城委員) それは言われるとおり。

(今井委員) それからいろいろ科学的な施設などを誘致して発展させることはいいことだと思うが、一方で中津川市は自然が豊かで、この前中津川のある方が「今後加子母や付知の北部のほうが活性化するには、癒しと医療という町を目指さないといけない。」「香嵐溪はモミジやイチョウなどの広葉樹だけでかなり客を集めている。」「この辺は自然が豊かなところだから、図書館ができなくなったのでその運営費分を毎年旧市町村に出して、スギやヒノキのような針葉樹を少しずつ間伐して、そこに紅葉するようなかなぎを植えて都会から来た人が森林浴したりできるように、付知の奥などの歩道をよくしたり、そういうところにもっと力を入れたら、長い目で見るとリニアもできるし都会から客が来るのではないか。」と言っていた。確かに丸山輝城委員が言ったことは大事なことだと思うが、それは中津川でなくてもできることなので、中津川しかできないものは自然しかないと思う。今はどちらかというと工業などに目がいって、人間は自然の一部なのに自然に目がいていないので、中津川市の大きな資源である自然を活用して、住んでいる人の心が癒されるようなところに力を入れたほうがいいと思う。

(小池委員) 高齢化社会が進む中で、高齢者の将来の生きがいという部分で「生涯学習」ということと、言葉で言えば「健康なまち」ということになると思うが、第一線で社会に貢献した人たちが生涯健康で過ごせるような環境づくりと、一言で言うところ「福祉のまち」になるが、社会に貢献した人たちが生きがいをもって暮らせる社会にもう少し市も目を向けることを打ち出すことも大事なことだと思う。それから孤独死や虐待も大きくはなっていないが中津川市にもある。その抑制には地域のコミュニティ・絆などすべてのものが絡み合うので、市民がお互いに、子どものこと、高齢者のこと、高齢者の見守りや子どもの見守りを含めて、地域のコミュニティと絆づくりで地域全体が支え合う雰囲気になるようなビジョンが作成されるとすばらしいと思う。

(安藤広子委員) まちづくりは人づくりというところで、工業をやるにしても何をやるにしても人が育たないとだめだと思っている。目先のことで工業振興とか福祉とかいろいろやるが、本当の人としての心を育てることが大事。年配の人を大事にしようとか、生きる一番大事なところはそこだと思う。中津川の豊かな自然をパワースポットで売りに出したり、心豊かに思えるような市民一人ひとりを育てることが大事だと思う。その中で今市長部局に家庭教育推進の課があって、家庭教育は地域でやるが、市長部局と教育委員会は行政的なことだけであって家庭教育は地域でやってもらえたらいいと思う。一番の元は少子化問題で、結婚して出産しないと人口は増えない。結婚したいと思えるような心の子どもに育てないと人口は減ってしまうので、自然豊かな中津川を大いに活用して、乳幼児からでなくても母親でも人を敬ったり心の優しい強い人たちを育てる取り組みができるといいと思う。

(田島副部会長) 人育ては人と人の連携が一番大事なことで、子育てする親をケアする大人と、大人がもう少し年を取ったらその人をケアする子どもたちとか、人が連なって成り立っているということが皆さんの心の中で明らかになっていない。人をやさしく心豊かに育てるには、人が連携していて1人ではないことが明らかになっていること、それをみんなが自覚していて一人ひとりの行動が充実して魅力ある行動ができる。そのことが一番大事だと思う。魅力があって自分をアピールできるような中津川人を育てないと、よそからカップルを誘致することも大事だが、中津川の市民が結婚して次につなげていくことが一番大事だと思う。人づくりが一番大事なところとして反映していったほしい。

(加藤 出部会長) 付け加えたいところの話も出たので、事務局でまとめてください。まちづくりの基本は理念としての市民憲章にあると思う。旧中津川市にも恵北にもそれぞれ市民憲章がある。今はばらけている気がするので精神的な面を一つにする必要があると思う。新しい市民憲章を作ってこれがまちづくりの理念だと位置づけてスタートしていくのがいい。草津温泉に行ったときに草津の町民憲章は東山魁夷先生が訳したものが町民憲章として伝わっている。観光都市だから「歩み入る者にやすらぎを、去りゆく人にしあわせを」という町民憲章

となっている。そういう理念をもってみんながまちづくりに励んでいる。そういう理念を示さないと合併して10年経っても一つにならないのだと思う。精神的なしっかりした絆を作るに市民憲章を作っていく必要があると思う。

今の付け加える意見を事務局でしっかり対応してほしいと思うがよろしいか。

(木村企画財務課長) 議事録にも残してまとめるような形にしたいと思います。第3回の部会
のときに部会長から要請がありましたので、第3回の議論と皆さんからいただ
いたキーワードと意見を反映してたたき台を作りましたので配布します。

(小池委員) 市民憲章の話だが市民憲章を知らない人が多いと思うので、この際市民憲章を
見直して、市民の心が一つにできるような誇りが持てる市民憲章はいいことだ
と思う。中津川市の市民憲章作って会議の前に唱和するとか、市民としての意
識を高める必要があると思う。

(加藤 出部会長) 合併したところはみんな新しくしている。多分中津川市だけやっていない。
一体感を作るならそういう精神的理念をまとめるべきだと思う。

(安藤広子委員) 明智の乳幼児学級に行ったときに若い母親たちが明智町の憲章を会の前に読
む。それを小さい子どもたちも聞いていてそれが伝統になっているのでいいこ
とだと思った。

(加藤 出部会長) たたき台をまとめてあるので説明願います。

～事務局 資料説明～

(丸山輝城委員) 学力アッププログラムは今中津川にあるのか。

(木村企画財務課長) あります。

(丸山輝城委員) どこが持っているのか。

(木村企画財務課長) 教育委員会です。

(丸山輝城委員) それは何年生から何年生までか。

(田島副部会長) 幼稚園から中3まで。

(丸山輝城委員) 先ほど今井委員から出た事務長の異動がという問題は、行政当局がビジョン
を描かなくてもやる気になれば明日でもできる。なぜそのことを言うかという
と、中心市街地活性化の担当部長が5年で6人替わっている。これはやる気にな
ればできる。

それから自然は大切だが、十数年前に岐阜新聞に「自然ミュージアム中津川」
という論文を投稿した方がいて私はそれを大事に持っている。彼の言っている
ことは誠に正しい。街に恵那山を正面にした地図があるがあれは彼がつくった。
中津川の問題と子育ての問題を15、6年前に岐阜新聞に投稿している。
自然も大切だが自然はどこへ行ってもある部分ケチをつける人はいる。そうい
う中で産業もないと人は住まないし収入がないといけない。その両立が必要で
人が住めば必ず教育がいることだけ言っておきます。ここで失礼します。

(加藤 出部会長) 修正があればお願いします。

(田島副部会長) 将来都市像で「多くの子どもたちがたくましく育ち」の「多くの子どもたち」の使い方はすごくいい。たくさんの人が中津川に定住して子どもたちがたくさん生まれてということに引っ掛けて作ったのか。

(木村企画財務課長) この部会のテーマに少子化と子育て支援があるので、そこからは「多くの」という言葉を使いました。

(小池委員) 「多くの子どもたち」はちょっと引っ掛かる。多くというのは全員ではない。

(田島副部会長) 反対に思ったのは、こどもがいて「すべて」だが、「多く」という言葉自体が、これから定住化させて子どもたちがたくさん生まれてという中津川にしたいという意味で使っているのではないかと思った。

(小池委員) 取り方にもよるかもしれない。多くは全体を指さないので、「すべて」ならすべての子どもだが。

(田島副部会長) 始めはそう思ったが、全部読むとここにかけてきているのかなと思った。

(加藤 出部会長) 1つ目の生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援分野はよろしいか

～異議なし～

(加藤 出部会長) 2つ目の地域医療、公立病院、高齢者福祉、乳幼児福祉、障がい者福祉分野はよろしいか。

～異議なし～

(加藤 出部会長) 2つをまとめると1番上のものになる。

(田島副部会長) 心豊かとか思いやりとかやさしいという言葉を入れ、人としての豊かさを入れると全体が掌握できる。

(木村企画財務課長) 田島副部会長が言われるのは「安心で子どもたちがたくましく育ち いきいきと心豊かに暮らせるまち」というイメージですか。

(田島副部会長) そうすると子どもだけになってしまう。

(木村企画財務課長) 「たくましく育ち」で切ってあるつもりですが「いきいきと」にもかかってしまうということですね。

(田島副部会長) そうです。子どもたちはたくましくて、ここに子どもたち以外の人もいきいきという感じで。

(安藤広子委員) 子どもも年寄りもたくましく生き生きと元気に暮らせる中津川でいい。たくましくは母親でもたくましくなってほしい。

(田島副部会長) 次を担うのが子どもたちなので「子どもたち」という言葉があってもいい。

(加藤 出部会長) 「誰もが」という言葉を入れるといい。

(安藤広子委員) 「多くの」子どもたちにかかっていて「多くの」の意味が話し込んでいる私たちにはわかるが、普通の人だとわからないと思う。

(田島副部会長) 「子どもたちがたくましく育ち 誰もが安心でいきいきと心豊かに暮らせるまち なかつがわ」とすると、子どもたちの「いきいき」がなくなるがまとまりはよくなると思う。特に子どもたちをピックアップするのはありだと思う。

(加藤 出部会長) 今言った言葉を入れてたたき台を作ってください。

(木村企画財務課長) ストレートに変更することでよろしいですか。

～「はい。」の声あり～

(加藤 出部会長) あるべき姿はどうか。

(小池委員) あるべき姿の言葉も今の言葉を加えないといけないと思うが。

(加藤 出部会長) あとは部会長と副部会長で確認して出すことでよろしいか。

～異議なし～

(加藤 出部会長) 副部会長と相談して確認します。

3. 今後の取り組み方針について

(加藤 出部会長) 今後の取り組みだが予定はどうなるか。

(木村企画財務課長) 今夜、三役・部会長・副部会長会議があるので、それをふまえて皆さんの都合がいい日を事務局で調整します。

(加藤 出部会長) 今日9人の会議でスケジュールの話があるようですので、決まったらお知らせします。

(小池委員) 3人欠席なので集まれる時間を考慮してもらいたい。

(木村企画財務課長) 行政側から提出した資料から抜けているところがあったと思いますが、そこを部会から行政側に提案したいものとしてまとめて出していただくとありがたいと思います。せっかく部会で議論されても、将来都市像を一本でまとめてしまうと皆さんの意見が行政側に伝わらない可能性があるのでは、それをまとめて部会長から審議会へ提出していただいて、その扱いを検討していただくとありがたいです。行政もその観点を踏まえて作業ができるので。

(小池委員) 今抽象的な表現になっているのを具体的な実施の提案を含めてということか。

(木村企画財務課長) そうです。

(加藤 出部会長) 第3回までの意見を文書にして行政に出すということです。

(安藤広子委員) ここにさっき言った市民病院の事務長が3年なりで替わってしまうということとは出してはだめなのか。

(木村企画財務課長) 考えましたが総合計画で政策部分なので、人事権はちょっとなじまないのかなと思いました。

(小池委員) それは市長の人事権の問題なので、そこは総合計画で入り込むとまずいと思う。

(安藤広子委員) 3年で替わった結果がこれなので、私たちが口を出さないといけない。

(加藤 出部会長) 別途こういう話があったことを伝えます。

(小池委員) これについてはいろいろ意見があると思う。僕も違った観点で意見がある。今までの歴史の中でどうしていくかということなので、事務局長がずっと定着することがすべてではないし逆の部分もある。だから定着すれば病院経営が改善するとは限らない。市が財政的な問題を含めていかに重点項目として位置付けてやるかという大きな問題がある。

(加藤 出部会長) これを行政に出したいと思うがよろしいか。

～異議なし～

(加藤 出部会長) 閉会

午後5時06分 閉 会

平成25年12月9日
教育・文化スポーツ・福祉医療部会
会長 加藤 出